



新しい年度がスタートします

新しいお部屋、新しいお友だち、子どもたちは期待でいっぱいです。保護者の方々にとっては、不安もあるかと思いますが、困ったこと、わからないことなど何でも気軽に、担任に声をかけてください。

園とご家庭とで、しっかりコミュニケーションを図り、楽しい子育てをしていきましょう。



楽しい保育を展開するために

子どもたちのたのしい保育を保障するためには日ごろの体調管理が何より大切です。お忙しいとは思いますがご協力をお願いします。

- ① 毎朝、お子さんの体温を測ってからお越しください。
- ② お預かりしている間に、37.5度の発熱を目安にご連絡させていただきます。また発熱だけでなく、咳、鼻水、倦怠感などいつもと違う様子が見られた時には、受診していただければと思います。
- ③ 発熱した際、解熱後24時間は様子を見ていただきますようお願いいたします。

感染対策に、細心の注意を払うことで、いつも通りの楽しいあそびが展開できます。ご理解とご協力、よろしくをお願いします。

廃材を集めています

おうちでいらなくなった、空き箱、芯、カップ、包装紙など何でもよいです。子どもたちが制作で使いますので、玄関の段ボール箱の中に入れていただければ嬉しいです。ご協力をお願いします。



令和5年度 4月の園だより

感謝と思いやりのある自主的な行動の取れる子に

お子さまのご入園・ご進級おめでとうございます。これから始まる4月の園生活は、新入園児はもちろんのこと進級児にとっても、しばらくは緊張の毎日になるものと思われます。登園を嫌がるようでしたら、一言担任にその旨をお伝え下さい。

さて、みみようグループの「みみよう」は仏説阿弥陀経というお経の中の「微妙香潔」から引用したものです。阿弥陀経の中の一節に、池の中には車輪のような大きな蓮の花が咲いている。青いのもあれば、黄色や赤、白いもある。みんな一本いっぽん違っているが、それらが一斉に咲く様子は何とも言えないほど（微妙）、芳しく良い香りがして清らか（香潔）であるとあります。みみようの名には、子どもたち一人ひとりが持って生まれた個性を伸ばして欲しいという願いが込められています。

個性を伸ばすというみみようグループの教育目標は、「感謝と思いやりのある、自主的な行動のとれる子に」です。感謝と思いやりは、生まれた時からしっかり可愛がられることと、1歳から2歳にかけて始まる反抗期を、自分の思いを周りに伝えようとする成長期として受けとめてもらうことで、自分は愛されている、認められているという自己の存在に対する自信（自己肯定感）と、まわりの大人への信頼感が出発点になります。周りの人への信頼感は周りの子どもへの関心や仲間づくりの出発点になります。また、感謝と思いやりは、生まれたときにしっかり可愛がられ、普通の愛情で満足できることが絶対条件になります。普通の愛情で満足できないと絶えず不満の種となり、わがままになったり、周りの子とうまく遊べない子となります。お忙しいことですが、小さいお子さんの心の成長には、愛情と励ましが必要なことをご理解いただければと思います。



くまの・みらい保育園



2023年度 主な行事予定

- 4月22日(土) 親子参観日(全クラス)
- 5月13日(土) 親子遠足(幼児クラス)
安佐動物園
- 6月10(土) 親子参観・ピオトープ観察会
1年生カレーパーティー
- 7月8日(土) 夏祭り
- 7月28日(金) お泊り保育(年長クラス)
- 7月29日(土) // (年長クラス)
- 9月1日(木) 運動会予行演習
- 9月9日(土) 運動会
- 10月14日(土) 講演会
- 11月11日(土) みらいフェスタ
- 12月15日(金) もちつき
- 12月20日(水) クリスマス会
- 1月11日(金) 発表会予行演習
- 1月20日(土) 発表会
- 2月1日(木) 豆まき
- 2月22日(木) 入園説明会
- 3月16日(土) 卒園式

毎月、避難訓練・誕生日会があります。諸事情により、予定が変更になることもありますが、早めにお知らせしますので、よろしくをお願いします。

「非認知能力を刺激する教育に努めている園の子どもは、抑制機能や切替機能が身についている」。これは東京大学の幼児教育研究機関の発表です。非認知能力とは「読む」「書く」「計算する」などの認知能力の裏にある「物事に対する興味や関心、自分を大切にしたり自分を良い方向に高めようとする意欲」のことで、子ども時代は「ごっこあそび」など子ども自身が自分で考え、仲間と一緒に工夫する活動の中で身につきます。

「質の高い教育・保育」というのは、子ども自身に考えたり工夫したり、判断できる経験をさせることです。

ご家庭でも、お子さんの言葉をしっかり聞いてあげたり、うなずいたり、励ましてあげてください。自分に対する自信があそびを深め、仲間と力を合わせて粘り強く遊ぶ経験が非認知能力を刺激して、卒園する頃には抑制機能と言って順番を待ったり我慢することや、切替機能と言って状況に合わせて気持ちを切り替える力や、友達と考えたり工夫しながら、「問題を見つけ解決する力」や「行動する力」、「やり抜く力」、「我慢する力」など、目には見えない「やる気」が生まれ、これが小学校以上に望まれる「学びに向かう力」へとつながってゆきます。

自分のことは自分で考える判断できるという、主体性を育てる一番大切な鍵は家庭にあります。ご両親が頭ごなしに「ああしなさい。こうしなさい」と命令していたのでは、指示待ちの子どもになります。「できたら褒める」、失敗した時は「なぜ、失敗したのか」を話し合い、お子さんが自分で失敗した原因に気がつくようにしてあげることが、時間がかかっても主体性を育てることになります。

本年もよろしくお願いいたします。

みみようグループ前理事長
みみよう教育研究機構会長

